

地域ぐるみの木材利用のあり方について考える －岩手県指導林家等研修会を開催－

1 はじめに

林業技術センターでは、地域林業のリーダー的役割を担う指導林家等の連携を密にし、資質向上を図るため、岩手県指導林家等研修会を開催しました。

研修会は、去る2月23日から24日に青森県平川市及び弘前市で開催し、指導林家や林業普及指導員など合計15名が参加しました。

2 木質バイオマス発電施設での研修

23日は、木質バイオマス発電及び発電施設へのチップ供給を行っている、(株)津軽バイオマスエナジー(津軽BE)と津軽バイオチップ(株)(津軽BC)



津軽BC チップ製造施設を視察

を視察しました。

津軽BEは木質バイオマス発電事業を初めて手掛けることとなり、平成27年12月に本格操業を開始したばかりとのことでした。

特筆すべき点は、地域の素材生産事業者などが津軽BCに出資し資本関係を持つことにより、経営に参画している意識を共有し、原木の安定的な供給体制の構築につなげている点です。

両社経営陣は林業・木材業については、ほとんど経験がないことから、地域の林業団体との密接な関わりを重視しており、この点は本県も見習うべきところだと、研修生一同感じた次第でした。

3 『木育』に関する施設での研修

24日は、弘前駅前に位置する商業施設『ヒロロ』内の「弘前市駅前こどもの広場」で、木育を子育て支援施設に取り入れている事例について研修しました。

大手スーパーが撤退した商業ビルの活用を模索していた弘前市が3階フロアを買取り、こどもの広場を整備したとのこと。フロア内には、県産材を用いた遊具が設置されており、利用料は無料で誰でも利用できます。

また、木工工作体験講座や木育に関する講演会などのイベントを継続的に開催していますが、その背景には弘前地域に多い木工職人の存在があり、この職人さんとの協働により様々なイベントが開催されているとのこと。



岩木川をイメージした木製遊具

4 おわりに

2日間の研修を通じ、参加者にとっては、地域ぐるみの木質バイオマス燃料の供給、そして、人に安らぎや温もりを与える手段として木育を提供するという、2つの視点からの木材利用を考えるよい機会となったようです。

林業技術センター普及班では、時代の流れやニーズに応じた研修会開催を通じ、指導林家等の活動を引き続き支援していきます。